

「セルベッサ」に見る 業務パッケージの幸福な未来像

オープンソースの業務システム セルベッサ

オープンソースによる
地域情報化講演会

福岡商工会議所

2004.6.11

株式会社ニュートーキョー

財務部 情報システム室 室長
湯澤 一比古

k.yuzawa@newtokyo.co.jp



「セルベッサ」に見る業務パッケージの幸福な未来像



2000/12/04

ユーザー企業が生み出し、ユーザー企業主導で成長していくセルベッサは、業務パッケージの理想的な未来像を示している。

それでは最後の質問。あなたの会社は、社内で利用している業務システムのソース・コードを公開すると何らかの不利益を被る可能性がありますか？

不利益を被る可能性がないのであれば、公開を検討してみることをお勧めしたい。あなた自身の手で、未来をほんの少し幸福な方向に動かすことに貢献できるかもしれないから。

(中村 正弘＝日経コンピュータ編集委員)



「セルベッサ」に見る業務パッケージの幸福な未来像



2000/12/04



三つの質問が示されていた

1. あなたの会社は、社内で利用している業務システムのソース・コードを公開できますか？ できない？ それでは、その理由は？
2. あなたの会社は、同業他社が開発し、ソース・コードがインターネットで公開されている業務パッケージを採用しますか？ しない？ それでは、その理由は？
3. あなたの会社は、社内で利用している業務システムのソース・コードを公開すると何らかの不利益を被る可能性がありますか？

セルベツサはスペイン語でビール

ニュートーキョーはビヤホールの老舗です

全国に150店舗

創立：昭和12年6月9日



セルベツサは受発注システム

受発注システムの無い
外食チェーンは存在できない！

食品の安全性に対するニーズの高まり

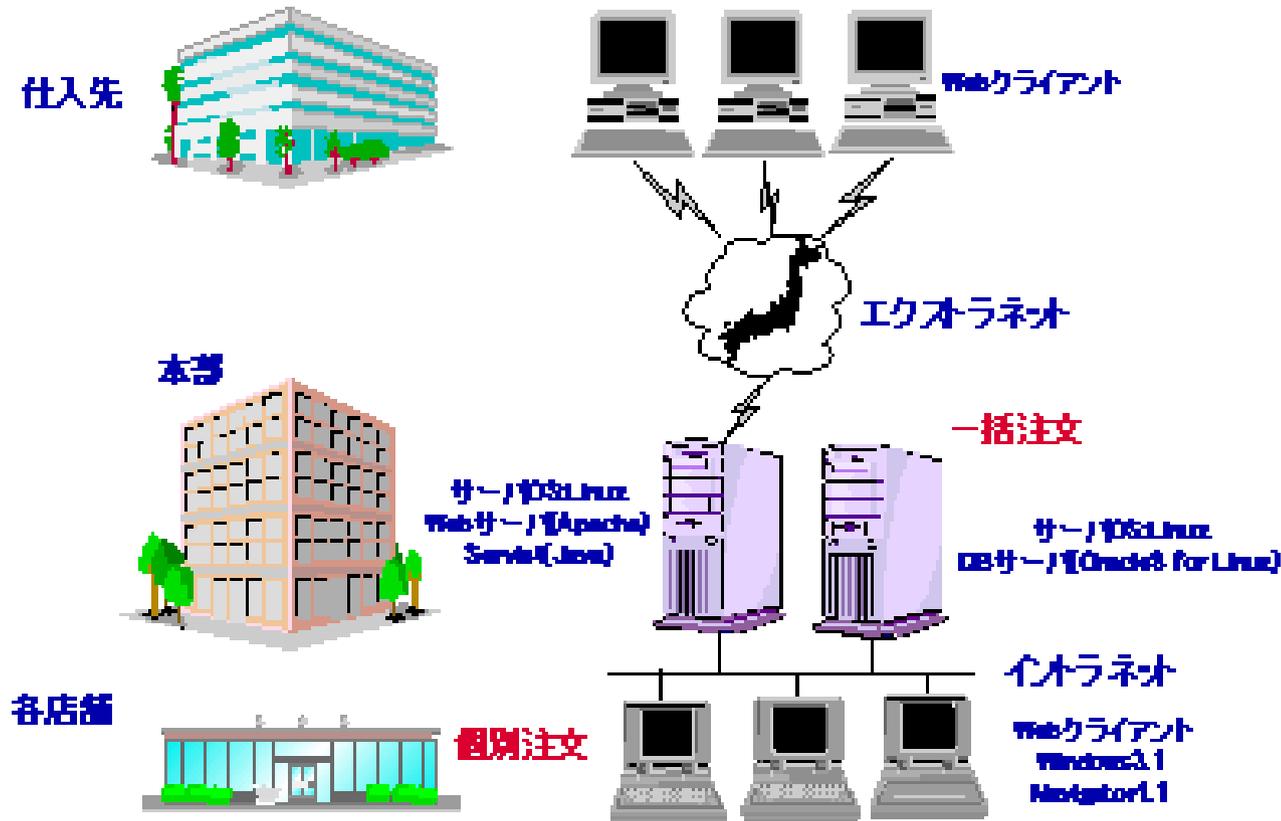
- 狂牛病(BSE)
- 鶏インフルエンザ
- トレーサビリティ

<http://www.newtokyo.co.jp/cerveza/>



セルベッサのシステム構成

構成図

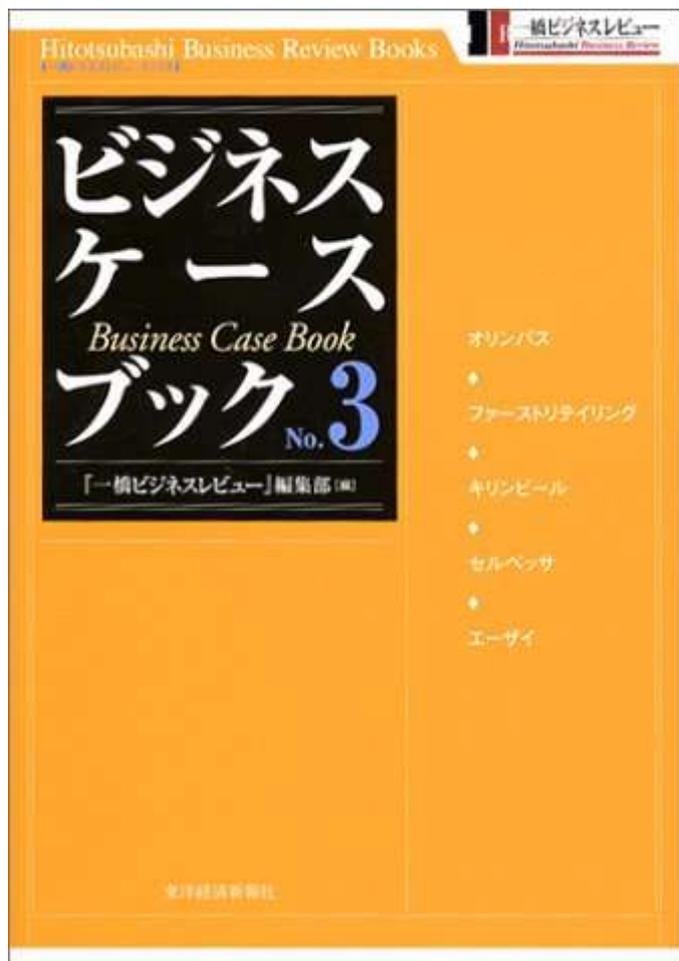


Webベースの
受発注システム

製品名および社名は各社の商標および登録商標です

セルベツサはオープンソース

- Webシステムはオープンソース環境で作りやすい
- セルベツサそのものも、オープンソース



『一橋ビジネスレビュー』
ビジネス・ケースブック 3
にも詳しい経緯が載っている



オープンソースは使えそう

1998年10月
セルベッサのプロトタイプを開発

Java + Linux

きちんとサーバで動く
外食店舗向け 受発注システム

- Webアプリケーション
- Java Servlet (BlackDown)



オープンソースは使えた

1999年7月
セルベッサが社内で本格的に稼動

オープンソースのアイデアも使える

- 開発者のモラルアップにも繋がる
- 外注先をコントロール出来るのでは
- 開発コストを、特にメンテナンスコストを落とせる



オープンソースなら皆で使える

受発注システムには多くの当事者が関わる

- 多種類の受発注システムが導入されると不便
- 物流コストを下げるには上流の効率化も必要
- パートナーとアライアンスを組みやすい
- 多くの人に使ってもらった方が得



1999年11月 オープンソースとして セルベッサを発表



- 日経BP社のセミナーで発表
- 株式会社テンアートニ
株式会社トップマネジメントサービス
2社の共同発表
- 開発者を中心に200名近くの聴講者

外食企業への セルベツサの普及



- 2000年 5月 アウトバックステーキハウス
- 2000年 9月 WDI様 カプリチョーザ
- 2000年10月 大戸屋
- 2001年 4月 ダイナック
- 2002年12月 浜木綿

敬称略

多様性が育ってゆく

2003年3月
ダイナック

セルベッサのDBをPostgreSQLに変更

- 色々なユーザーが多様性を提供してくれる
- システムのビジネスロジックは生き残れる



ソフトウェアはシェアすべき

利用者が少ないソフトウェアは割高

- システムは使っているうちに鍛えられる
- 利用技術は利用者の数に比例する
- 保守費用はシェアできる



この指とまれ 方式

パッケージ販売を検討しなかった理由

- メンテナンスやカスタマイズのニーズに応える体制がない
- 販売費に開発費以上のコストが掛かる
- 本業以外でビジネスは難しい



この指とまれ 方式

共同開発制にしなかった理由

- 打ち合わせの負担が大きい
仕様の決定
費用の分担
- ソフトウェアの所有権の問題
- 責任の所在があいまいになりやすい



オープンソースを増やす方法

オープンソースが増えれば
システム担当者は楽になる筈

- 自社で開発完のソフトウェアを公開
cerveza
- プロトタイプ段階で公開
garagardoa
- 使用許諾権の代わりに
オープンソース化費用の形で支払？
- アワード制度等を作って公募？



オープンソースを増やしたい

2002年9月
ガラガラドアを発表

<http://www.oscar.gr.jp/download.php>



HOME About OSCAR 活動内容 入会申込み ダウンロード

OSCAR Alliance [ダウンロード](#)>

[GARAGARDOAダウンロードサイト](#)
>>こちらからどうぞ

[フランシーヌ・ダウンロードサイト](#)
>>こちらからどうぞ

[ペンギンオフィス2・ダウンロードサイト](#)
バージョン2.0.1に更新
>>こちらからどうぞ

 それぞれのダウンロードサイトからパッケージがインストールできます

オープンソースでビジネスを

エリック・レイモンド

伽藍とバザール

ノウアスフィアの開墾

魔法のお鍋



使用許諾も自己責任

写真のフィルムの保証は？

素敵な旅行の思い出がフイになっても、新しいフィルムが幾つかもらえるだけ。

殆どの保証がこの程度だと考えるべき。



ソフトウェアは買えない

ソフトウェアを利用するには . .

- 自ら主体となって開発する
委託開発
- 使用許諾権を購入する
パッケージソフトの利用
- 使用料を支払う
ASP等の利用



開発委託

オープンソースは
開発の管理手法として使える

ユーザー企業に求められるのは
シビリアンコントロールの技術

情報技術を持たない管理者が、情報技術企業と言うパワーをどの様に制御し、力を引き出すか。



開発委託

オープンソースは 開発手法として使える

チーム開発の新しい形として、
オープンソースは使える。

- ソースフォージ
プログラムの鍛冶場
- コラブネット
有償版



開発委託

オープンソースは
保守手法として使える

読んでくれない人がいなくな
ったソフトウェアは実は
死んでいる

ソフトウェアはそれを活用し、読
み、理解し、直す人がいる間だけ生きて
いる。だから、読む人がいなくなったソ
フトウェアは腐ってゆく。



パッケージソフト利用

ビジネスモデルもアイデアも守れない

- パッケージ価格よりカスタマイズ費用が高いものも多い。
- 著作権はカスタマイズ部分を含めてパッケージベンダーのもの。
- 企業が持つアイデア、ビジネスモデルがパッケージベンダーに吸い上げられる。



パッケージソフト利用

長期的には困り込まれる危険性が

- 移行が難しくなる。
- バージョンアップ費用や保守費用がかさんでくる。
- ブームに流される可能性がある。



パッケージソフト利用

パッケージソフトの代わりとして
オープンソースを利用できる

- プロトタイプとして利用すれば
システム要件の洗い出しが可能
- カスタマイズ費用は
パッケージ利用のときと同じ
- 他の事例を研究しやすい
- 著作権の拘束が少ない



ASPの利用

困り込みによる危険が極大

サービス企業の変化の影響を強く受ける

- 利用者が十分に増えない場合は？
- 新たなニーズへの対応は？
- 値上げ要求があったら？
- 倒産等のリスクは？



ASPの利用

オープンソースのASPなら

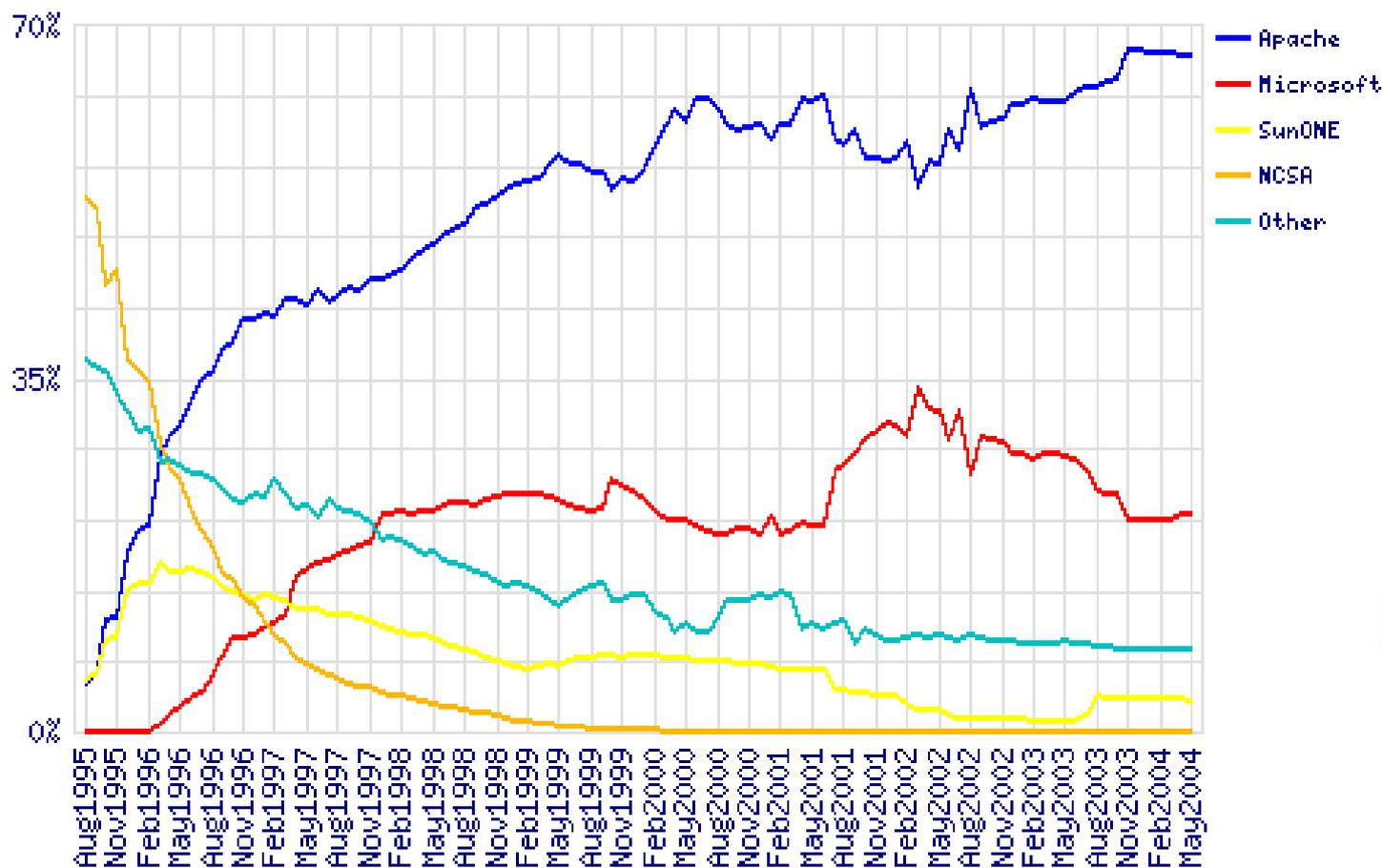
- オープンソースを利用したASPならソースコードを確保する事で、さよならをそれ程恐れなくてすむ。
- 他の企業の提供する、同じソフトウェアを利用したASPを利用できる可能性がある。



ASPの利用

ISPは殆どがオープンソースで営業をしている

http://news.netcraft.com/archives/web_server_survey.html



S i e r の方々へ

オープンソースで 幾つかの問題が片付く

- 経験が長い開発者にも活躍の場がある
- 新人教育に苦勞しない企業になれる
- 小さな S i e r でもパッケージソフトを持てる
- 他の S i e r とコラボレーションも可能



公共団体で働く方々へ

多くの団体が使うシステムを 1つだけのオープンソースで 統一する事も夢ではない？

公官庁や地方公共団体が主体となって自ら開発したソフトウェアは是非オープンソースとして公開してください。

そうすれば、他の公共団体も、私企業も皆このオープンソースを再利用できるのです。



ソースフォージを使ってみよう



オープンソースはコラボレーションを 上手に進める為の最強のツール！

<https://sourceforge.jp/>

プログラムの 鍛冶場

ライセンスは
GPL
だけじゃない

経済制度は 文化さえも 生産性の奴隷

第三の波

アルビン・トフラー

生産財共有不可

第一の波 農業

第二の波 工業

生産財共有可能

第三の波 IT産業

ソフトウェアは共有可能

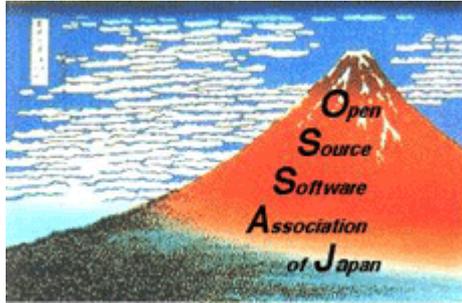


参考 URL 独断と偏見で



FSF	http://www.gnu.org/fsf/fsf.ja.html
OSI	http://www.opensource.org/
OSG-JP	http://www.opensource.gr.jp/
魔法のおなべ	http://cruel.org/freeware/magicpot.html
ソースフォージ プログラムの鍛冶場	http://sourceforge.jp/
エクリプス	http://eclipse.org
ストラッツ	http://www.ingrid.org/jajakarta/struts/struts1.0/ja/target/documentation/

ご清聴ありがとうございました



オープンソースソフトウェア協会
<http://www.ossaj.org/>



OSCARアライアンス
<http://www.oscar.gr.jp/>

ご意見のメールをお待ちしています

K.Yuzawa@newtokyo.co.jp